



スコットランドの風

'Gaoth bho Alba' NPO法人 日本スコットランド交流協会ニュースレター 発行責任者：関 妙子 2019.10.27発行



目次

Scotland Day + Burns Night	1
日本スコットランド交流協会 年次総会	2
ヒスロップ大臣 歓迎レセプション	3
フォース橋の模型で受賞	
新設・トンボ学生服奨学金	4
日本スコットランド交流協会奨学金	
奨学生たちからの声	5
JSAオリジナルタータン制作秘話	6
ラグビーワールドカップを迎えて	7
スコットランドから来訪された方々	
エアシャーフィドルオーケストラ コンサート	8
小林紀子バレエ・シアター主催イベント	
スコットランド認知症研究者の方々と共同研究	9
会員紹介	
本部・支部の活動報告	10
Edinburgh支部設立 / お城の物語	12
協会からのお知らせ	



JSA主催／Scotland Day + Burns Night 開催のお知らせ

過去3回の Scotland Dayに引き続き第4回 Scotland Dayを開催するにあたって、本年度は2020年2月1日に「Scotland Day + Burns Night」として、スコットランドの国民的詩人ロバート・バーンズ(1759-1796)の生涯や詩を記念して祝う「バーンズナイト」も加えて開催することとなりました。日本スコットランド交流協会が目指す、スコットランドとの文化、スポーツ、学術、ビジネスなどのあらゆる面での交流を標榜するEVENTです。ご期待ください。構成は第1部：スコットランド留学フェア／第2部：スコットランドの文化、教育、スポーツに関するそれぞれの分野の専門家による講演／第3部：バーンズ・ナイトの伝統的な儀式に引き続きビュフェ・スタイルのDinnerとスコティッシュダンスとなっています。＊詳細＝近々、ホームページ&会員一斉メールにてお知らせします

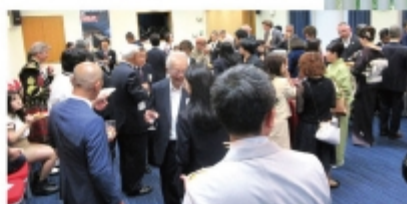
NPO法人日本スコットランド交流協会 年次総会 開催

2019年5月31日(金)、駐日英国大使館ニューホールにおいてNPO法人日本スコットランド交流協会年次総会が開催されました。会長 Frank Boyland 氏の挨拶に始まり、議長として選出された新改修基氏により議事進行が行われ、平成30年度の事業報告及び活動計算書(2018.4.1~2019.3.31)、監査報告、定款の変更が満場一致で承認されました。小根山理事より本年から本NPOの奨学生の数を2名へと増やしたこと、また今回選出されました北村望さんの紹介が行われました。

総会に引き続き開催された懇親会には80名余りが集い、ジェラルド・ミューヘッド氏によるバグパイプの演奏を皮切りに懇親会がスタートしました。来賓としてお越しいただきました駐日英国公使代理キース・フランクリン博士、参議院議員古川俊治先生、プリティッシュカウンシル駐日代表マット・バーニー氏から二国間や個人間の交流についてお話いただき、スターリング大学ディレクターのケリー・ブライソン氏に乾杯のご発声を頂戴し和やかな歓談が始まりました。



奨学生の北村望氏を紹介する小根山理事



上:キース・フランクリン博士



左:ケリー・ブライソン氏
中:古川俊治先生
右:マット・バーニー氏

また、ロッキヤロン社日本代表の綱島実氏とアカツキ商事の山本克成社長によるJSAタータンの発表が



あり、そこに込められた思いや願いをご説明いただきました。このJSAタータンをもとにしたJSAオリジナル商品の紹介も行われ、早速ご予約いただいた会員の方も多数おられました。会の途中では昨年大好評を博した抽選大会が行われ、結果が発表されるたびに歓喜の声が漏れていました。

JSAの懇親会の特徴は、一流アーティストによる音楽演奏です。ジェラルド・ミューヘッド氏による世界最高峰のバグパイプの音色に魅了され、山内達哉バイオリンカルテットの心躍る演奏に時間が経つのを忘れてしまいそうなひと時となりました。来年度の総会・懇親会で会員の皆様とお会いできるのを楽しみにしています。

写真上(左): JSAオリジナルグッズを制作された山本氏と関名善会長

写真上(右): JSAオリジナルタータンの制作過程について説明される綱島氏



いつも熱い名演奏を聴かせてくれる山内達哉バイオリンカルテット



フィオナ・ヒスロップ文化・観光・対外関係大臣来日歓迎レセプション

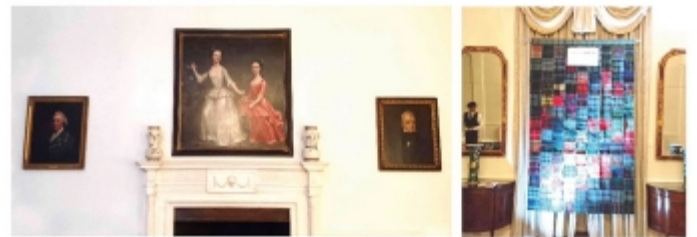


ポール・マデン英国大使を囲んで

フィオナ・ヒスロップ大臣とご一緒に
(大臣右=JSA大使スティーブン・ペーカー氏)

10月8日ヒスロップ大臣歓迎レセプションが英国大使館で開催され、日本スコットランド交流協会から綱島夫妻、竹鶴氏、野間氏、小林氏（お二人）、そして関が出席しました。レセプションは主催のポール・マデン英国大使の歓迎のスピーチで始まり、今回で4度目の来日になるヒスロップ大臣は、引き続いてのスピーチで具体的なビジネスの交流の例を挙げ、日本とスコットランドの多岐にわたる分野での交流が更に深まっていることを強調しました。もちろん週末（13日）に行われるラグビーの日本対スコットランド戦にも触れ、両国にエールを送られました。その後、来年のエディンバラ・フェスティバルに参加する東京都交響楽団理事長の近藤誠一氏の乾杯で、スコットランド特産のウイスキー、サーモン、ハギスなどを味わいながらの楽しい懇談へと移りました。個人的には、過去3年来日のたびにお目に掛かり、昨年は当協会が「Scotland Day」を開催した東京

芸術劇場をご案内したことなど思い出し懐かしくお話しさせていただきました。その際に、当日の鮮やかな赤のドレスは日本の色（国旗）なので選んだとお話をされ、細やかなお心遣いに感銘を受けました。日本スコットランド交流協会への変わらぬご支援をお願いし、ヒスロップ大臣からは引き続きご支援いただけるとの心強いお言葉を頂きました。



レセプション会場にはロッキオン社の各種タータンも展示されていました



フィオナ・ヒスロップ大臣の歓迎レセプション

文化・観光・ビジネス・教育などの交流のためスコットランドから4度目の来日。英国大使館大使公邸にて開催。NPO日本スコットランド交流協会の関妙子名誉会長・顧問の竹鶴孝太郎氏たちと出席。玄関にはバグパイパーがお出迎え…。スピーチでは当然、ラグビー「スコットランドvs日本戦」の話もされましたが皆さんジョークを交えた上手な話し方〜流石！150〜200名くらいがスコッチを含む各種飲み物、美味しい料理&デザートそして紅茶（やはり英国です）をいただきながら楽しく交流しました。中庭からの空には大型台風を予感させるような雲が…。「ぜひ良い試合を観たい！」でも台風で流れるかも…（微妙） * 野間顧問のfacebookより

目黒学院鉄道研究同好会 フォース橋の模型で受賞

当協会に鉄道研究同好会の顧問の土田恒先生から受賞の連絡があり、英国大使館に展示したいという希望を伺いました。JSA大使スティーブンペーカー氏にお願いしたところ、ラグビーワールドカップ開催中、英国大使館での展示が決まり、現在展示中です。JSAのEVENTの際にもお借りして、会員の皆さまにも見ていただける機会を持ちたいと思っています。（関）

私たちは、今年の7月27、28日の二日間、東京ビッグサイト青海展示棟にて開催された、第11回全国高校生鉄道模型コンテストに参加しました。毎年、この大会のモジュール部門（300mm×900mmの大きさのボードに鉄道に関連したジオラマを作製する）に参加していますが、今までなかなか受賞にはいたりませんでした。しかし、



今回、スコットランド東部のフォース川河口にかかるフォース橋を製作したところ、見事ベストプレゼンテーション賞を受賞しました。このクオリティーであれば大使館級の場所での展示にも耐えうると考え、日本スコットランド交流協会に連絡させて頂きました。作りはシンプルですが、すべて紙で作られているところ、橋と海と色のコントラストがこの作品の売りです。この橋は日本とスコットランドとの友好の懸け橋という事ですので、この模型が両国の友好関係に役立てたら、製作した生徒達も大いに喜ぶことでしょう。（土田）





『日本スコットランド交流協会トンボ学生服奨学金』 創設のお知らせ



当協会の法人会員で、トンボ学生服、ピクトリースポーツウェアなど学校制服やユニフォームの最大手メーカーとして知られる「株式会社トンボ」さまから、このたび奨学金として年額30万円をご寄付いただけることとなりました。

JSAでは、現存する『日本スコットランド交流協会奨学金』（2名に各20万円給付）に加え『日本スコットランド交流協会トンボ学生服奨学金』を創設し、20万円をスコットランドの大学の大学院で修士

号取得を目指す学生の奨学金に、10万円をスターリング大学で開講されている高校生向け英語学習コースに参加する生徒の支援にあてることにいたしました。

『株式会社トンボ』さまからの寛大なお申し出により、現在の2名から3名へと奨学生が増え、新たに高校生への支援も始めることができるという当協会にとって大変喜ばしい機会ですので、皆さまにお知らせいたします。

株式会社トンボ 代表取締役社長 近藤 知之様からのご挨拶



トンボの原点は「生徒の成長を見守る」ことです。生徒一人ひとりが、学校生活で人と交わり、喜び、悲しみ、悩みながらも輝きを増す時を過ごして欲しいと想っています。その為には、次世代を担う高校生たちが、グローバルな文化や歴史的背景を持つ人々と交流を行うことが大切だと考えています。トンボはタータンチェックを通じて英国スコットランド「ロキャロン社」と深いつながりがあります。「ロキャロン社」のデザインしたタータンチェックが、日本の中学校・高校約120校のスカート柄に採用され、約3万人の生徒に着用していただいている事もあり、何か恩返しをと考えていました。そんな時、NPO法人日本スコットランド交流協会の留学奨学金制度の事を知り支援を申し出たところ『日本スコットランド交流協会トンボ学生服奨学金』として創設していただくことになりました。このことが将来、社会に役立つ人材教育の一助になればこの上ない幸せです。



2019年度・日本スコットランド交流協会奨学金について

本年度より選考方法に面接審査を加え、更に優秀な方2名を選出いたしました。その本年度の奨学生であるStirling大学大学院にてTESOL（英語教授法）を学ばれる北村望さんとグラスゴー大学大学院でMBA（経営学修士）を学ばれる榎本将之さんより、現地で

の生活の様子や修士コースへの意気込みが届いております。スコットランドの風土を存分に吸収し実りある留学生活を送れるよう、是非ともお二人への応援をよろしく願いたします。（小根山）

北村 望さん スターリング大学



写真(左)

「1日24時間では足りない！」まさにその言葉が当てはまる毎日を送っています。現在はTESOLのあらゆる理論やそれに基づく指導法について学んでいます。経験豊富な教授たちからの興味深い授業に加え、自主的な学習やクラスでの仲間とのディスカッションは刺激的であり、いつも新たな発見を与えてくれます。キャンパスも自然が豊かで美しく、これから訪れるスコットランドの四季の変化を体験することがとても楽しみです。

University of Stirling
MSc Teaching English to Speakers of Other Languages

榎本 将之さん グラスゴー大学

現在スコットランドのグラスゴー大学でMBA（経営学修士）を勉強しています。50歳台半ばにして留学を志し30数年ぶりに学生に戻った訳ですが、英語力が入学の基準に足りなかったため、この春から



写真(一番左)

同大学の付属の英語学校に入り、若い人たちと一緒に悪戦苦闘しながら勉強し、何とか無事にこの9月に入学を果たしました。中国・隋代の儒学者王通の言葉に「白首北面」というのがあります。年老いても向学心が衰えないという意味ですが、これからが本番ですので気を引き締めて頑張りたいと思います。

2018年度奨学生(太田さん) スターリング大学大学院で修士号を獲得

太田 智美さん 一番左



台風一過と共に秋がやってきましたが、JSAの会員の皆様、いかがお過ごしですか。2018年度JSA奨学金を頂いた太田智美です。皆様のおかげで、スターリング大学大学院を無事修了し日本に帰国致しました。大学では「国際紛争と国際協力」という学部で国際関係論、国際組織、国際交渉など国同士の関わりや、組織・個人の活動について学びました。論文では昨今話題のジェンダー主流化をテーマにアフリカにあるシエラレオネとリベリアの平和交渉における女性の参加について調査しました。国同士の摩擦は近年至る所で生じ、緊張状態が続く場所が増えていますが、スターリングで学生として様々な国の人たちと交流をしていると、互いに話をし、知り合うことで、理解しあえることがこんなにもあるのにと痛感しました。それは異国の人だけでなく、同じ国の人同士にも言えることだと思いました。理解したいと思うことが始まりなのだ。貴重な経験ができたのも、奨学生として送り出してくださった皆様のおかげです。とても感謝しています。

2020年学部入学のためスターリング大学 Foundation Course に9月進学

羽根田 萌さん 左から2人目(後列)



今年の4月から8月末まで Academic English コースが無事に終了し、9月からは Foundation コースに入ることが決まりました！今回の春夏の留学では、沢山の友達ができ楽しい日々を送っておりました。その中でも印象的なのが、8月中旬に台湾、韓国、タイ、カンボジアの友達と共に自国の食べ物を作ってみんなでお別れパーティー(写真)をしたことです。タイ人の友達は、9月から自国で就職するので、みんなでお別れするのはこれが最後でした。その他の友達は9月からマスターに行くのでまた会えます。今回の留学では、沢山の友だちに助けられてここまで来ました。本当に有難う御座いました。そのおかげで、IELTS のスコアが伸び、クラス内で優秀賞が貰えました。Foundation コースも怯まず頑張って勉強していきたいです。

4週間コースに参加された社会人

畠山 茜さん

初めての海外だったため、期待と不安を持って臨みました。他の参加者は日本、イタリア、クエートの高校生と大学生で、社会人は私一人でした。結論から言うと、行って大正解。先生はとっても優しく、スタッフも対応が柔軟で、安心して1ヶ月を過ごせました。授業はレベルが高く、私は付いていくのがやっとでしたが…。普段の生活から離れ、集中的に英語を学べたことは勿論、沢山のひとと出会い、客観的に自分を見つめ直すこともできた、内容の濃い時間でした。



岸本 夏希さん (JSA 会員) 前列の左から2人目

スターリング大学での生活が終了し、先月日本に帰国しました。この1年間を思い返すと、本当に楽しかった、スコットランドへ行くことを決意して良かったと心から思っています。修士課程において国際ビジネスを専攻し、世界中の人との出会いを通じて、英語力の向上だけでなく、各国の文化や歴史も学ぶことができました。所属していたバスケットボール部では、チームとしてスコットランドリーグで優勝し、個人としては MVP を受賞することができました。また、修士論文では、インドでの1か月の滞在、日本の蜂蜜企業へのヒアリング調査を通して、インド産蜂蜜における日本市場への輸出の可能性を調査しました。1年間を通じて様々な経験をする事ができ、挑戦することの重要性を学ぶとともに将来に対する自身の可能性が広がったように感じます。



2018年・3週間の英語コースに参加した高校生たち

羽根田 健太朗くん

この夏8月4日から3週間スターリング大学へ行き、とても充実した滞在でした。滞在中は自活のため食事に期待をしていない私が衝撃を受けた事はフィッシュ&チップスの美味しさでした。付け合わせのポテトも日本で食べるフライドポテトよりも数倍も美味しく魚のフライもお皿からはみ出す程の大きさのものでしたがあっという間に完食する事が出来ました。高校生の私にとっては卒業後どこへ行って一人生活をして大丈夫だと確信する事の出来た良い機会だったと思います。



長瀬 恵一くん スコットランド留学を通じて



この留学を通じて、僕はとても大切なことを学びました。それは「伝えたいという気持ちを持つこと」です。言語は違っても、もとは同じ人間です。伝えたいと思っていれば、自然と相手の話が分かってきます。そして、自然とコミュニケーションが取れるようになります。実際、僕はそのおかげでたくさんの友達できました。文法があやふやでも、最後までしっかりと話し切ることで、相手にしっかりと自分の思いや考えを伝えることが出来ました。この学びを生かし、これから生活していこうと思います。そして将来、国際的に活躍できるような大人になりたいと思います。このような貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。



JSAオリジナルタータン制作秘話 網島 実 (ロッキヤロン社日本代表・日本ユティコ株式会社社長)



スコットランド
タータン
登記証明書

JSAオリジナル/バッグ・ポーチ・ネクタイ

今年の2月に関さんから「日本スコットランド交流協会（JSA）の今後の発展の為にアイデンティティとしてオリジナルタータンが必要です。是非5月の総会までに制作して頂き、発表したい。」との依頼がありました。が…耳を疑いました。通常、カラーとデザインの構想、そしてデザインの最終決定に1年以上を費やし、その後スコットランド自治政府管轄のスコットランド・タータン登記所に申請、類似の有無に付いて8人の審査員全員の賛成を経ての承認。承認されなければ、また一からのやり直しです。承認された場合はサンプル生地を試織、織られたサンプル生地を添付した額入りのサーティフィケートの作製、この過程全てを約3か月で済ませなければならないのです。

私に関さんと最初にお会いしたのは去年の1月に英国政府スコットランド担当大臣の歓迎晩餐会が英国大使館で行われた時でした。席は既に決まっておられ、大臣の隣に関さんが、その隣に私が座りました。食後 歓談の時に関さんとお話するとスコットランドの文化を愛する心が同じで、共通の友人も多く、今までお会いしなかったのが不思議なくらいでした。

関さんが今までスコットランドとの文化と教育の交流に情熱を注がれていた事を知っている私は、関さんの依頼に「分かりました。どうかかしましよう」と自然に答えていました。

それからは、ロッキヤロン社社長の指揮の基デザインチームが一丸となってデザインの制作に当たりました。まず、タータンの定義

「2色以上の意味を持った色系が直角に交差する事」を基に、カラーはスコットランドの国旗のブルーと日本の国旗のレッドをベースに両国旗共通のホワイト、そしてスコットランドのウイスキーの香りが漂うイエローに決めました。このカラーで構成された約40のデザインが創作され、内15の有力候補が提出され、JSA理事会での協議、ロッキヤロン社の修正提案を経て4から2デザインに絞り込まれ、理事会の決定で一つのデザインに決められました。その後このデザインがスコットランド・タータン登記所に申請され、最終的に承認、登記されJSAタータンが誕生しました。5月31日にJSA総会は開催され、関さんの希望通りに当日JSAタータンは、生地を添付されたサーティフィケートと一緒に紹介されました。が…サーティフィケートが日本に到着したのは“何と”総会の2日前でした。

JSAにはスコットランドを愛し、タータンを愛する人、企業が集まっています。法人会員であるアカツキ商事さんはJSAタータンを使用したトートバッグ及びポーチの製作を申し出て下さり、現在素敵な製品が造られています。また、同じ法人会員でありロッキヤロン社のEコマース上唯一の正規販売店であるビーエッグさんは、JSAタータンネクタイの協力販売を申し出て下さっています。

タータンはスコットランドの文化であり誇りです。タータンは今年のデザイン、去年のデザインとなることはなく、50年後も100年後も何世代にもわたり愛され続けて行きます。ロッキヤロン社は、JSAタータンが日本とスコットランドの文化の交流に貢献できますようスタッフ一同 願っています。



関名譽会長お隣：
アカツキ商事株式会社
社長 山本完成氏
(JSAオリジナル
バッグ・ポーチ・
ネクタイ作製)

2018年来日時
ロッキヤロン社 社長
そしてタータン
デザイナーでもある
Dawn
Robson-bell 氏と
ヨーロッパアン
テキスタイルフェア
会場にて



Carrossland ロッキヤロン
オリジナルネクタイは JSA
法人会員ビーエッグ株式
会社・上原 尚也 社長の
ご厚意により「ロッキヤロン
国」
で買い求められます。

バッグとポーチは JSA 本部
に問い合わせ
ください。
直接販売を
しています。



ラグビーワールドカップを迎えて

アジア初開催のラグビーワールドカップが開幕し、連日熱戦が繰り広げられています。JSAは、2019年9月20日から11月2日に渡って、ラグビーワールドカップを盛り上げるために横浜の臨港パークで開催されている「ラグビーワールドカップ2019=ファンゾーン in 神奈川・横浜」に設置されているスコットランドの公式テントに Newsletter「スコットランドの風」を提供、多くの来訪者が手に取り増刷をしなければならぬ事態に嬉しい悲鳴を上げています。

(関)



スコットランドブースでニュースレター12号を手にして



パイパー 金子誠人氏・右=SDI 塘田美和氏

世界3大スポーツ大会の1つであり、北海道から九州まで全国12ヶ所で開催されているので様々な場面で関連情報を目にします。スコットランドは強豪チームであり現在世界ランクは8位。日本は9位です。前回大会で日本が唯一敗れたのがスコットランドでしたが、今回の大会でも、勝者が決勝トーナメント進出という緊迫した状況で再び対戦しました。スタジアムには約7万人が集いファンゾーン横浜(下)には1万5千人が訪れたそうです。私は友人を呼んで両国の国旗を飾り、大画面のスクリーンでテレビ観戦(右)を楽しみました。予想通り、非常に拮抗した大変レベルの高い試合となりましたが、今回は日本が勝利し、史上初の決勝トーナメントに進出しました。ラグビーの大切な精神の中に「ノースайд」があります。試合が終わればどちらのチームに所属しているかは関係なく、一人の人間としてお互いを尊重し讃え合うというものです。これは観客も同じで、スタジアムでも観客席はチーム別に分かれていないため、相手チームのファンと隣同士で観戦を楽しみ試合後にはお互いを讃え合い、一緒にビールを飲んだり写真を撮ったりして交流を楽しみます。海外からファンがたくさん来ている今は自然と国際交流ができるチャンスです。

また、ワールドカップ後も世界各国で魅力的な試合が行われます。是非、ラグビーをきっかけに国境や世代を越えた交流をお楽しみ下さい。(新改)



世界3大スポーツ大会の1つであり、北海道から九州まで全国12ヶ所で開催されているので様々な場面で関連情報を目にします。スコットランドは強豪チームであり現在世界ランクは8位。日本は9位です。前回大会で日本が唯一敗れたのがスコットランドでしたが、今回の大会でも、勝者が決勝トーナメント進出という緊迫した状況で再び対戦しました。スタジアムには約7万人が集いファンゾーン横浜(下)には1万5千人が訪れたそうです。私は友人を呼んで両国の国旗を飾り、大画面のスクリーンでテレビ観戦(右)を楽しみました。予想通り、非常に拮抗した大変レベルの高い試合となりましたが、今回は日本が勝利し、史上初の決勝トーナメントに進出しました。ラグビーの大切な精神の中に「ノースайд」があります。試合が終わればどちらのチームに所属しているかは関係なく、一人の人間としてお互いを尊重し讃え合うというものです。これは観客も同じで、スタジアムでも観客席はチーム別に分かれていないため、相手チームのファンと隣同士で観戦を楽しみ試合後にはお互いを讃え合い、一緒にビールを飲んだり写真を撮ったりして交流を楽しみます。海外からファンがたくさん来ている今は自然と国際交流ができるチャンスです。



スターリング大学の キアラ・マクネリーさん今年も来日



キアラ・マクネリーさんはスターリング大学の英語コースの責任者で、コースに参加したJSAの会員の皆さんが大変お世話になっている方です。昨年に引き続き来日され、この度は滞在中にJSAのスコティッシュキッチンにも参加されました。

* 以下、キアラさんの寄稿文です。

As a member of the Internationalisation & Partnership Department at the University

of Stirling, I was fortunate enough to visit some of our Japanese partners last month to advise them of our courses running over the next academic year. At Stirling, we are always looking for opportunities to build on the strong foundations we have established in Japan, and find new ways to better support Japanese students wishing to study in Scotland.

I also had the pleasure of taking part in a cooking class with some of the JSA members, hosted by Dr Taeko Seki. It was a wonderful afternoon of preparing food around the table, eating together, and sharing stories of Scottish and Japanese culture. It also inspired me to cook a Japanese meal of okonomiyaki for my friends on my return to the UK. The ritual of sharing time, food, and friendship with the JSA members was a real comfort, especially when thousands of miles away from the familiarity of home. This afternoon will stand out as a special highlight of my trip to Japan - thank you for making me feel so welcome!

グラスゴー大学同窓会

去る7月24日、グラスゴー大学の同窓会が国際文化会館にて開かれました。今回はグラスゴー大学神学・宗教学科にて教鞭をとられている矢崎早枝子先生がいらっしゃり、大学に関する様々なお話を伺うことができました。特に矢崎先生はグラスゴー大学と日本の交流の歴史についても研究や保存活動を行っており、現地で取り組んでおられる講演・交流活動に関しても興味深いお話をして下さいました。参加された卒業生の方ともじっくりお話が出来、アットホームな雰囲気の中で素敵な会となりました。(小根山)



エアシャーフィドルオーケストラのコンサートが 7月3日 大妻女子大学千代田大妻講堂にて開催されました



井上副学長(右端)・伊藤学長(中央)
関名誉会長・贈呈するユアン団長



二年の歳月をかけてやっと実現した同オーケストラ史上初の日本ツアーで、音楽監督デビッド・モア氏に伴われ、12歳から21歳までの80人余りの団員が各地で演奏会を予定。ツアー最初のコンサートはJSAが実現に尽力し、当日も松原理事が通訳を務めるなどJSAスタッフが運営の手伝いを行いました。大妻講堂にはセーラ・マデン英国大使夫人を迎え、500人以上の来客を得て、スコットランドの曲に加え日本唱歌2曲を含む全19曲を元気に瑞々しく演奏。スコットランド舞踊、ア

イルランド舞踊も交えたバラエティーに富んだ演目で、観客もオールド・ラング・ザイン(蛍の光)など著名曲を口ずさむなど、楽しいコンサートとなりました。また、大妻女子大学伊藤正直学長、井上美沙子副学長、JSA関妙子名誉会長にオーケストラの団長ユアン・テラス氏から世界平和祈念タータンのスカーフの贈呈、さらにJSA名誉会長にはケイビの贈呈がありました。

小林紀子バレエ・シアター主催のイベント 「東アジア・バレエフォーチャー」 に協力・参加

8月4日、小林紀子バレエ・シアター目白スタジオで、「東アジア文化都市豊島2019パートナーシップ事業」の一環として行われた「東アジア・バレエフォーチャー」に当協会が協力という形で参加しました。世界の国々で長く愛され続けている舞台芸術「バレエ」を通し、日、中、韓の次代を担う若いバレエダンサーたちが芸術交流を行うイベントに、当協会からバグパイブ演奏家でスコットランド・カントリーダンサーの金子誠人さんが参加、文化交流の楽しいひと時を過ごしました。15歳でエディンバラに留学、20年以上



その地でバグパイパー・ダンサーとして活躍され、現在は日本でJSAのイベントで活躍している金子さんの華麗なステップにバレエとの歴史的な交差を見出したり、日、中、韓からの若手のバレエダンサーがスコットランドのダンスを踊ったりの交流があり、ダンサーだけでなく観客の方々も大いに楽しみました。小林紀子バレエシアターは国際的に評価の高いスコットランドの振付家である



ケネス・マクミランの作品を積極的に取り上げ、2007年にはマクミラン振り付けの「コンチェルト」が英国紙「ファイナンシャル・タイムズ」において絶賛されています。2017年には「マクミラン没後25周年記念公演」を主催、今年9月7日、8日の講演でもマクミランの「エリート・シンカーゼーションズ」が上演され観客を魅了しました。今後とも当協会としては、小林紀子バレエシアターとジョイントイベントなどを積極的に進めたいと思います。(関)



スコットランドの研究者の方々が日本との共同研究に大挙来日

10月4日、日英共同プロジェクト「高齢者と認知症のための環境デザイン国際研究ネットワーク」の第2回会議・シンポジウムが慶応大学で開催されました。英国側の代表であるスコットランドのスターリング大学から Alison Bowe 教授をリーダーとして9名の研究者が来日参加、日本側からは慶応大学、静岡大学、東京都健康長寿研究センター、日本医療政策機構、コーディネーターとして株メディヴァが参加して、数々の興味深い発表に引き続き活発な意見交換が行われました。オブザーバーとして出席した私も午前8時半から午後4時半の長きに渡る研究者の方々の真剣な議論に感銘を受けました。スターリング大学の認知症研究は世界的に評価され、2014年には東京都健康長寿研究所との共同研究が始まり、その後着実に成果を上げ、今年5月にはスターリング大学でプロジェクトの第1回会議が開催されています。今回の第2回に続き2020年には第3、4回がそれぞれ、スターリング、東京で継続的に開催される予定です。プロジェクトの目的は、認知症当事者が生き活きと生活でき

る環境作りを国際社会が直面する大きな社会問題と捉え、社会や経済、環境、政策の面など学際的なアプローチで、研究者だけでなく研究機関以外のステークホルダーを含めたネットワークを構築することにあります。スコットランドと日本の共同研究にJSAとして今後も注目していきたいと思っています。(関)



会員紹介・1 光恵子さんが臨古書道展・臨古大賞を受賞されました



臨古大賞受賞作品 = 顔真卿「自書告身帖」

第48回・臨古書道展 神奈川県民ホールにて2019年8月21日～25日開催 / 令和元年という記念すべき年に、JSA監事の光恵子さんが見事、臨古大賞を受賞されました。光さんからJapan Weekで訪れたスコットランドでの思い出を寄稿していただきました。

私は2014年、2016年2月に定期的にスターリング大学で開催されているJapan Weekに書道実技の講師として当地を訪問しました。お客様はスターリング大学の学生、教職員や地域の人々で大勢集まりました。日本から漢字1～2文字の手本を沢山用意していましたが、造形の面白い草書に人気があったり、「義理」という字が書きたいというインストラクターの男の方のリクエストに応じたりと、思わぬ

反響に楽しい時間を過ごしました。書道のほかに「盆栽」「茶道」「寿司の実演」「日本刺繍」など伝統的な日本文化や、「ヴァイオリン演奏」「アニメの世界」等、講演会も毎回盛況です。

その折スターリング大学長McCormac氏にディナーに招待いただき、その時にお話された「日本にはアジアのリーダーであってほしい」との言葉はここに響きました。

滞在中は跡見女子大学、早稲田大学の語学留学生と一緒にネス湖を旅行したりグラスゴー、エジンバラに電車で遊びにいたりしてスコットランドを満喫しました。JSAを通して得がたい経験をいたしました。ぜひ会員の皆さんには、スコットランドに行っていたいだきたいです。

会員紹介・2

牛島 一江さん



わたくしは、茅ヶ崎マカナフラフェスティバル2019という9月14日に開催されたハワイ文化を学ぶ大会に参加するために以前よりスコットランドハイランド地区で生まれ育ち20才でハワイ島に移住として渡ったJames Hendersonというかたのリサーチをしておりました。そんな中、彼のことを深く知りたくなりJSAにたどり着きました。スコティッシュキッチンに参加させていただいた折りに関さよりスコットランドの方のこと、気候や歴史について色々教えていただきました。それは不思議なくらいにハワイと共通することが多く、ハワイ島のパイホヌアというハイランド地区に故郷に似た家を見てスコットランド風の美しいガーデンを妻と作り多くの方に開放していた彼を知る手がかりとなりました。生涯を通して

夫婦で慈善活動を続けたJamesはハワイ語でKimoと呼ばれ美しい歌詞とメロディーのハワイアンソングとまでなりました。

Kimo Henderson Hulaと言う題名のこの歌はあまりにも有名です。7月3日に開催されましたエアシャーフィドルオーケストラの講演で誇らしく胸にアザミのブローチをつけた皆さんを拝見しました。Kimoさんもハワイにいてもスコットランドへの愛はいつも心にあつたと確信し、わたくしたちはガーデンに咲いていたであろう花と、タータンのリボン、そして国花のアザミを髪に飾り、スコットランドとハワイの架け橋になった彼のために心を込めて踊りました。関さまのお話が心に響き、素晴らしい思い出となりました。

Teatime English (英会話)



会員の一人が、4月にカナダのカルガリー大学の春期講座に参加したとのことで、報告文書(英文)をベースに前半のレッスンが進められました。発表のテーマは、ホストファミリーとのふれあいについて。ボランティア活動で、劇場で切符売りを手伝ったこと、近所の夫婦と教会の集会と一緒に参加したこと、近所の読書家と英文学談義を行ったことなど、現地の人々との交流の大切さを学ばれたということについて発表がありました。

後半は、新しい年代、「令和」を迎え、それ以前の平成および昭和の時代が各人にとってどのような時代だったのか振り返り、ペアーでディスカッション。その後、先生が各チームからの報告内容を簡潔にまとめて、全体の意見集約を行いました。改めて、新しい令和の時代が平和でありますよう、全員が切に願いました。

第17回 スコティッシュキッチン



9月14日土曜日、東京本部のある目白に会員6人が集まり、第17回スコティッシュキッチンが開かれました。講師は種子田敦子さんです。前菜はキッシュロレーヌ、スープはムール貝のクリームスープ、ムール貝は最近冷凍品が販売されていて使い勝手がいいです。メインはスコツ鶏胸肉を密閉ビニール袋にいれ、しっかり空気を抜き、袋ごと



火を止めた熱湯のなかに6~8時間放置したものを、卵のソースをつけていただきます。デザートはヴィクトリアブディング、エディンバラフォッグです。スコットランドは寒冷の地ですが、牛乳、生クリーム、バターは豊富で、それを使った栄養のある料理を食しているラグビースコットランドチームが来日します。頑張っしてほしいものです。スターリング大学国際交流課のキアラ・マクネリーさんと跡見女子大学の大阪晴美さん(JSA会員)が急遽参加して下さり賑やかでした。次回は12月、クリスマス料理を予定しています。ホームページをご覧ください。



2019年8月、宮崎公立大学では僕を含む9名がスターリング大学の留学プログラムに参加しました。スコットランドでの生活は何もかもが新鮮でした。気候、人柄、食べ物が日本と異なる環境に身を置き、充実した時間を過ごすことができました。スターリング大学では広々とした自然の中の素晴らしい環境で伸び伸びと学び、他大学の学生にも恵まれ、真剣に英語に取り組むことができました。グラスゴーやエディンバラの街並みにときめいたり、スコティッシュダンスパーティーで伝統衣装のキルトを着てみたりと、多くのことを初めて体験し、世界が広がったように感じています。スコットランドでの生活は忘れられないものになると思います。(宮崎公立大学2年 宮里 航士)



青森公立大学の学生2名が、Stirling大学のsummer programmeに参加した。スコットランドに約1か月間滞在し、貴重な経験をすることができた。スコットランドに滞在中、英語を上手に使いこなせない彼らにも、人々が非常に親切でスコットランド人の寛容な国民性を感じることができた。滞在中には、エディンバラの旧市街や新市街、また、中世のお城などを散策し、スコットランドの歴史を学ぶと同時に、たくさんの新しい発見をすることが出来た。学生にとっては、これまでになく大きく自分の世界を広げることが出来た滞在となった。

JSA 関西 関西支部の活動報告

関西ハイランドゲームズ協賛参加(4月7日)



関西支部は神戸・三宮の関西ハイランドゲームズ(関西ハイランドゲームズ協会主催)に協賛参加しました。今年は参加人数も増え、好天にも恵まれた充実した一日となりました。JSA関西支部のブースでは、会員の原さんによる英国金賞受賞の手作りマーマレードと、会員が持ち寄ったスコットランドゆかりの品々を販売すると共に、協会の活動をPRしました。

モード先生のスコットランド料理教室(4月21日、7月7日)



4月は15名、7月は10名が西宮北口に集いました。4月のメニューは、スターターに White vegetable soup、メインは Fish pie と Creamed mushroomsで、デザートは Baked Alaska。今回のメインイベントはデザートの Baked Alaskaでした。スポンジケーキの上にアイスクリームとフルーツを乗せてメレンゲで覆い、それを高温のオーブンで焼き上げるというもの。出来上がった時には歓声が上がりました。実はこの Baked Alaska、

何年も前に挑戦したことがあったのですが、様子がわからず、料理に引き続いて作ってしまい、料理の前にこのデザートを食べざるを得ない破目になりました。今回は無事タイミングよく味わうことが出来ました。

7月のメニューは、スターターに Mushroom Soup、メインは Chicken in Cider、付け合わせには Fried Potatoes と Stewed Peppersで、デザートは Victoria Sandwich。メインは Chicken in Ciderで、その主役は Cider ですが残念ながら英国産の Cider が入手できず、フランス産とスペイン産のシードル(それぞれアルコール5%)で代用しました。Cider の効果でしょうか、鶏もも肉も柔らかく美味でした。デザートの Victoria Sandwich について、本来 Scottish ではありませんが、Scotland でもよく作られるということなので、お願いしてメニューに加えて貰いました。

松阪 健コンサート(5月25日)

宝塚市・仁川のカフェ・ハッセルハウスにてイリアンパイプスのコンサートを開催。松阪健さんは、京都生まれ、和楽器に囲まれ育ち現在は、イリアンパイプス、イングリッシュ・コンサティーナ奏者として活動。今回はイリアンパイプス以外にもいくつかのティンホイッスルやイングリッシュ・コンサティーナを駆使して、スコットランドやアイルランドゆかりの曲を楽しいトークと共に披露してくれました。一方、岡崎泰正さんは大阪生まれ、各地のライブハウスで活躍中。今回はギターで松阪さんと共演し素晴らしいボーカルも聞かせてくれました。会場は宝塚スターの撮影にも使われている瀟洒な洋館のカフェで、このコンサートに相応しい雰囲気でした。



イリアンパイプスは音域が広くパイプオルガンのように音色が豊かで、また岡崎さんのジョンレノンを想起させる艶のある歌声に酔いしれたひとときでした。

英会話教室(6月8日)

今回のテーマは "Apologies: Spoken before, after or at the time of

a bad action" というので、Rolling Play を交えて会話を学びました。それは我々が学校で習った言葉の意味とニュアンスが全く異なるので、戸惑うものです。先生曰く、Japanese English は Native に対しては Dangerous! であるとのこと。結論的には、"Sorry" が万能で、"Pardon me" は時には無礼なことになりかねず、"Excuse me" に至っては最も危ないもので、使うのは避けた方が良いということでした。また、"Sorry" と "I'm sorry" とは全く違う言葉であるとのこと。ただし、これらはアメリカでは社会がフラットだから、状況は異なるとの説明に妙に納得してしまいました。



JSA ウイスキー倶楽部(6月29日)



宝塚市・仁川のカフェ・ハッセルハウスにて10名の参加で開催。今回のテーマは「スコットランドの白馬伝説・ホワイトホース飲み比べ」と銘打って、19世紀末から現在まで、足かけ3世紀に亘って世界中のウイスキー好きから愛されてきたスコッチウイスキーの代表的銘柄・ホワイトホースについて、JSAのウイスキープロフェッショナル(ウイスキー文化研究所が認定した資格)がテイastingを交えて解説しました。キーモルトとなる蒸溜所の歴史、ブランドの由来や伝説的経営者ピーター・「レストレス」・マッキーの話などを交え、現在の令和のボトルだけでなく、平成・昭和のボトルまで3つの時代のボトルの変遷を味わいながら、ブレンデッドウイスキーの奥深さを体験しました。

供試ウイスキー / 1: WHITE HORSE FINE OLD 40% (現行: 令和) / 2: CRAIGELLA-CHIE 13 YEARS 46% (現行: 令和) / 3: LAGAVULIN 16 YEARS 43% (現行: 令和) / 4: WHITE HORSE 8年 43% (1990年代流通: 平成) / 5: WHITE HORSE EXTRA FINE 43% (1990年代流通: 平成) / 6: WHITE HORSE GLEN ELGIN 43% (1990年代流通: 平成) / 7: WHITE HORSE 12 YEARS DELUXE 43% (1990年代流通: 昭和) / 8: WHITE HORSE LOGAN 43% (1980年代流通: 昭和) Edition 43%

砂古 玉緒さんの英国の菓子を楽しむ(8月10日)



NHK「マッサン」でスコットランド料理と菓子の製作指導を担当され、また全国にわたってご活躍中の英国菓子研究家・砂古玉緒さんに本場のお菓子を紹介して頂く会を開催しました。先生は、前日までにスコットランドの料理と菓子、そして英国の菓子を準備し、当日仕上げてくださいました。

そのメニューは、Atholl Brose, Ginger Loaf, Edinburgh Fog, Cullen Skink, Scotch Eggs, Sticky Toffee Pudding, Coffee Cake, Carrot Cake, Orange Cake, Summer Pudding with Red Wine, Christmas Pudding, Gingerbread, Chocolate biscuits, London Scones という14種類の料理とお菓子、そして数種類のスコットランドの紅茶や英国のリキュールのピムスを数種類という豪華なものでした。先生のデモンストレーションとお菓子の説明と共に、本場の味を堪能しました。バターやウイスキー、ワインがふんだんに使われているので、濃厚で豊潤、深い味わいがあり大変おいしいものでした。酷暑の中でしたが、名古屋や和歌山など遠方からも含めて19名の参加があり、ホームパーティのような、和気あいあいとした雰囲気なか、参加者同士や先生との会話を楽しみながら、楽しい時間を過ごしました。

関西支部の9月以降の活動予定

9月15日(日) スコットランド料理教室・秋の料理 / 10月26日(土) 英会話教室 / 12月8日(日) スコットランド料理・冬の料理 / 2020年1月11日(土) 英会話教室 / 2月1日(土) JSAウイスキー倶楽部

Edinburgh 支部設立 松原 衣里



このたび、日本スコットランド交流協会エディンバラ支部を設立することとなりました。日本における活動方針に即し、各大学や日本エディンバラ総領事館とも連携しながら、奨学生の援助や文化交流を目指して、会員の獲得や具体的な活動計画を立てていこうと考えております。

会員の皆さま、特にスコットランドにご友人がいらっしゃる方は支部設立の認知と活動内容へのご助言・ご協力をお願いいたします。

12 Dryden Place, Edinburgh, EH9 1RP, UK
EdinburghJSA@gmail.com

JSA奨学生帰国報告および Year-End Dinner Partyを開催～

会員の皆様のご支援を頂いていた2019年のJSA奨学生が、無事修士号を取得して帰国しました。昨年同様、12月上旬に奨学生の帰国報告会及びYear-End Dinner Party(忘年会)を開催します。奨学生がどのような学生生活を送り、どのように研究を進めたか、修士論文はどのような内容か、今後の仕事は、などについてDinnerを楽しみながら親しくお話ができる機会です。奮ってご参加ください。詳細については、近々ホームページ、会員一斉メールでお知らせします。

お城の物語

紅葉の中にたたずむ白いお城はスターリング大学のキャンパスにあるエヤースリー城(Airthery Castle)です。1791年に、当時英国で最も有名な建築家の一人だったスコットランド出身のロバート・アダムによって設計されました。ロンドンを中心に活躍していたアダムにとっては、故郷のScotlandでの数少ない建造物です。幸せにも私はこのお城で、モザイクの床や彫刻が施された壁面に囲まれて大学院の勉強をしました。第二次世界大戦中は産院として使われたので、スターリングには「私はお城の王子、王女」という人が多くいるのも楽しい話題です。実はロバート・アダムと経済学者のアダム・スミスはスコットランドの東海岸にあるカーコーディー(Kirkcaldy)という町でそれぞれ1728年、1723年に生まれた幼な馴染で、生涯良き友人であったということです。エヤースリー城は歴史記念建造物に指定されていて、一般公開されています。スターリング大学を訪れた際にはぜひ立ち寄ってください。因みに、お城の庭には9ホールゴルフ場があります。私は授業の合間にここで腕を磨きました。どうぞこちらも楽しんでください。(関)



UNIVERSITY of STIRLING



「スターリング大学春期英語研修」参加者募集 (7週間:2020年2月10日~3月27日)

7週間の英語コースで本格的に英語の習得を目指したい方ご参加ください。3、4、5、6週間の参加も可能です。18歳以上であれば英語能力や年齢の制限はありません。クラブ活動に参加するなど現地の学生との交流が図れます。経費:学費、寮費、週末旅行(エディンバラ、グラスゴー、セント・アンドリュース、ネス湖一泊)すべて含んで約3,995ポンド ※左記金額は7週間参加の場合。参加期間によって料金は変動します。Flight代と生活費(自炊で1週間5000円程度)は別途支払いが必要です。

☆上記にご興味のある方はお気軽にJSA事務局までご連絡ください。会員のご家族、ご友人の方の参加も歓迎です。締切:11月30日

【お問い合わせ】関 妙子(Stirling University, Honorary Doctor)

〒161-0033 東京都新宿区下落合3-12-28-1401 Tel/Fax:03-5988-8785

携帯:090-7192-4650 E-mail:taeko.seki@gmail.com

ご寄付ありがとうございました 網島 実さま ¥10,000 / 大坂 晴美さま ¥1,000 運営費として大切に使用させていただきます

編集後記

ラグビーワールドカップは日本チームの大活躍も相まってその注目度も日に日に高まっています。スコットランドは予選で日本と同じプールということもあり「スコットランド」の知名度が上がったことはスコットランドと縁のある者として望外の喜びです。ラグビーをきっかけにスコットランドに興味を持つ日本人が増えることを願います。JSAもその一助となるよう活動していきます。(飯村)



NPO法人

日本スコットランド交流協会
The Japan Scotland Association



ニューズレター13号 編集協力(敬称略)

☆東京: 関 妙子 / 飯村 英人 / 新改 登基 / 光 恵子 /

小坂山 晋 / 齊藤 史帆 ☆関西: 香川 久生 ☆九州: 前原 正人

☆東北: 香取 真理 ☆Stirling: 松原 衣里

☆制作: ノーマデザイン 野間 忠博

東京本部 〒161-0033 東京都新宿区下落合3-12-28-1401 Tokyo Headquarters 3-12-28-1401 Shimo-ochiai, Shinjuku-ku, Tokyo 161-0033, JAPAN

関西支部 〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町2-5-3-906 Kansai Branch 2-5-3-906 Shin-senri, Higashi-machi, Toyonaka-shi, Osaka 560-0082, JAPAN

九州支部 〒880-0032 宮崎県宮崎市霧島2-23-2 Kyushu Branch 2-23-2 Kirishima, Miyazaki-shi, Miyazaki 880-0032, JAPAN

東北支部 〒030-0196 東京都青森県青森市合子沢山崎153-4 青森公立大学 香取真理研究室内

Tohoku Branch Prof Mari Katori's office, Aomori public University, 153-4 Yamazaki, Goshizawa, Aomori-shi, Aomori 030-0196, JAPAN